

2014年8月期 第3四半期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2014年8月期第3四半期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第3四半期決算概要	P3	～	P16
II. 2014年8月期 通期業績予想	P17	～	P18
III. ご参考資料	P19	～	P22

【資料文中のグループ事業の表示について】

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

(2013年8月期以降)

国内ユニクロ事業：株式会社ユニクロの数値が表示されています。

海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス・タム・タム事業、
ジーユー事業、J Brand事業が含まれています。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

1Q~3Q
9ヶ月累計

売上高 : 1兆880億円 (前年同期比 +22.8%)
 営業利益 : 1,362億円 (前年同期比 +9.9%)
 経常利益 : 1,411億円 (前年同期比 ▲0.6%)

	1Q~3Q (2013/9~2014/5)			3Q (2014/3~2014/5)			単位: 億円
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比	
売上高 (売上比)	10,880 100.0%	8,858 100.0%	+22.8%	3,236 100.0%	2,709 100.0%	+19.4%	3
売上総利益 (売上比)	5,507 50.6%	4,439 50.1%	+24.1% +0.5p	1,739 53.8%	1,399 51.7%	+24.3% +2.1p	
販管費 (売上比)	4,144 38.1%	3,199 36.1%	+29.6% +2.0p	1,408 43.5%	1,126 41.6%	+25.1% +1.9p	
営業利益 (売上比)	1,362 12.5%	1,240 14.0%	+9.9% ▲1.5p	330 10.2%	273 10.1%	+20.9% +0.1p	
経常利益 (売上比)	1,411 13.0%	1,420 16.0%	▲0.6% ▲3.0p	335 10.4%	342 12.6%	▲2.0% ▲2.2p	
純利益 (売上比)	848 7.8%	884 10.0%	▲4.1% ▲2.2p	202 6.3%	229 8.5%	▲11.7% ▲2.2p	

まず第3四半期9ヶ月累計の連結業績ですが、
 売上高は1兆880億円、前年同期比22.8%増、
 営業利益は1,362億円、同9.9%増、
 経常利益は1,411億円、同0.6%減、
 純利益は848億円、同4.1%減となりました。

次のスライドで要因をご説明いたします。

売上高 1兆880億円 (前年同期比+22.8%、2,021億円の増収)

- ・海外ユニクロ事業 +1,364億円
- ・グローバルブランド事業 +380億円
- ・国内ユニクロ事業 +278億円

売上高総利益率50.6% (前年同期比+0.5p)

- ・国内ユニクロ事業 +1.7p

売上高販管費比率38.1% (前年同期比+2.0p)

- ・国内ユニクロ事業 +1.3p
- ・海外ユニクロ事業の拡大

営業利益 1,362億円、前年同期比9.9%増

経常利益 1,411億円、前年同期比0.6%減

- ・円安により為替差益53億円計上も、前年同期比で125億円の減少

純利益 848億円、前年同期比4.1%減

まず売上高ですが、1兆880億円と前年同期比22.8%増、2,021億円の増収となりました。その内訳ですが、海外ユニクロ事業が1,364億円の増収、グローバルブランド事業が380億円の増収、国内ユニクロ事業が278億円の増収となっております。

売上高総利益率は50.6%と、前年同期比0.5ポイント改善いたしました。粗利益率改善の主な要因としては、国内ユニクロ事業の粗利益率が同1.7ポイント改善したことがあげられます。

売上高販管費比率は38.1%と、前年同期比2.0ポイント増加しております。これは、国内ユニクロ事業で売上高販管費比率が同1.3ポイント上昇したこと、販管費比率の高い海外ユニクロ事業の構成比の拡大によります。これらの結果、営業利益は1,362億円、前年同期比9.9%の増益でした。

経常利益につきましては1,411億円と、前年同期比0.6%減となっております。これは、為替差益が今期末では53億円でしたが、前年では178億円だったことから、前年同期比で為替差益が125億円減少したことによります。

純利益は848億円、前年同期比4.1%減となりました。

今期は営業外の為替差益が前期より大幅に減少したことから、経常利益と純利益については、予想通り減益となりました。ただし、ユニクロ事業の好調により、営業利益ベースでは増益を達成しております。

第3四半期グループ事業別実績

単位：億円

		1Q～3Q (2013/9～2014/5)			3Q (2014/3～2014/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
国内ユニクロ事業	売上高	5,694	5,416	+5.1%	1,638	1,544	+6.1%
	営業損益	948	883	+7.3%	245	193	+27.1%
	(売上比)	16.6%	16.3%	+0.3p	15.0%	12.5%	+2.5p
海外ユニクロ事業	売上高	3,277	1,913	+71.3%	956	606	+57.7%
	営業損益	343	196	+75.1%	63	36	+75.3%
	(売上比)	10.5%	10.3%	+0.2p	6.6%	5.9%	+0.7p
グローバル ブランド事業	売上高	1,888	1,508	+25.2%	635	551	+15.3%
	営業損益	149	134	+11.3%	57	48	+17.6%
	(売上比)	7.9%	8.9%	▲1.0p	9.0%	8.8%	+0.2p

注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。
売上高には内部取引は含まれておりません。

グループ事業別の業績は、こちらのスライドの通りです。

第3四半期累計では国内ユニクロ事業の売上高は5,694億円、営業利益は948億円、海外ユニクロ事業の売上高は3,277億円、営業利益は343億円、グローバルブランド事業の売上高は1,888億円、営業利益は149億円と、全セグメントで増収増益を達成いたしました。

3Q (3~5月) 増収増益
営業利益は直近予想に比べ約30億円上回る

単位:億円

	1Q~3Q (2013/9~2014/5)			3Q (2014/3~2014/5)		
	9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
売上高 (売上比)	5,694 100.0%	5,416 100.0%	+5.1%	1,638 100.0%	1,544 100.0%	+6.1%
売上総利益 (売上比)	2,789 49.0%	2,561 47.3%	+8.9% +1.7p	862 52.6%	752 48.7%	+14.7% +3.9p
販管費 (売上比)	1,841 32.3%	1,678 31.0%	+9.7% +1.3p	616 37.6%	558 36.2%	+10.4% +1.4p
営業利益 (売上比)	948 16.6%	883 16.3%	+7.3% +0.3p	245 15.0%	193 12.5%	+27.1% +2.5p

注: 売上高には内部取引は含まれておりません。

6

ここからは各事業についてご説明いたします。

まず国内ユニクロ事業ですが、第3四半期3ヶ月間の売上高は、前年同期比6.1%の増収、営業利益は同27.1%の増益となりました。

これは、4月に発表いたしました直近予想に比べて、売上高で約15億円、粗利益率改善により、営業利益は約30億円上回る結果となっております。

3Q 売上高 1,638億円 (前年同期比+6.1%)
(3~5月)

- ・既存店売上高: 前年同期比+2.8% (客数 ▲2.7%、客単価+5.6%)
- ・店舗の大型化による1店舗当たりの売上高が増加
- ・5月末店舗数841店舗、前年同期末比+8店舗

販売動向 ・3月から5月の3ヶ月間は、気温が順調に上昇したことから、エアリズム、UT、ステテコ・リラコ、ドライ系ボトムスなど、春夏コア商品の販売が好調
 ・スカート、ブラウスなどの新商品も増収に寄与
 ・消費税増税による駆け込み需要もなく、4月以降の販売も好調で影響は見られない

客単価 ・エアリズムの販売好調で買い上げ点数が増加
 ・ジーンズ、スマートスタイルパンツなどのボトムスが好調による一品単価の増加

客数 ・昨年の客数がプラス16%と大幅に増加した反動

直営既存店 前年比	2014年8月期					
	上期累計	3月	4月	5月	3Q	6月
売上高	+2.2%	+0.6%	+3.3%	+4.1%	+2.8%	+2.6%
客数	+0.5%	▲6.4%	▲0.8%	▲1.3%	▲2.7%	▲3.8%
客単価	+1.7%	+7.5%	+4.1%	+5.5%	+5.6%	+6.7%

7

まず、国内ユニクロ事業の売上高について、詳細をご説明いたします。
 第3四半期3ヶ月間の売上高は1,638億円と、前年同期比6.1%の増収でした。これは主に、既存店売上高が2.8%増となったこと、スクラップ&ビルドによる店舗の大型化により1店舗当たりの売上高が増加したこと、5月末の直営店舗数が前年同期末比で8店舗増加したことによります。

3月から5月の3ヶ月間は、気温が順調に上昇したことから、エアリズム、UT、ステテコ・リラコ、ドライ系ボトムスなど、春夏のコア商品の販売が好調でした。それに加え、スカート、ブラウスなどの新商品も増収に寄与いたしました。

4月1日から消費税が増税となりましたが、3月の駆け込み需要もほとんどなく、4月以降の販売も好調で、特に影響は見られませんでした。

既存店売上高2.8%増の内訳は、客単価で5.6%の増加、客数で2.7%の減少となっております。客単価が5.6%増となった要因は、エアリズムの好調による買い上げ点数増と、ジーンズ、スマートスタイルパンツなどのボトムスが好調だったことによる一品単価の増加です。一方で、客数は2.7%減少しておりますが、これは昨年の客数がプラス16%と大幅に増加した反動によるものです。

すでにお知らせしている通り、6月の既存店売上高は、月を通して夏物コア商品の販売が順調に推移し、前年比で2.6%の増収となっております。

3Q
(3~5月) 売上高総利益率 52.6% (前年同期比+3.9p)

- ・ 従来ベースでの売上高総利益率は前年同期比+2.7ポイント、直近予想を上回る
- ・ 春夏のコア商品や新商品の販売が好調により、値引き率を計画通りコントロール

次に、国内ユニクロ事業の第3四半期3ヶ月間の売上高総利益率ですが、52.6%と前年同期比3.9ポイント改善いたしました。

なお、内部取引の影響を除いた従来ベースでの売上高総利益率は、前年同期比2.7ポイント改善、直近予想に対しても上回る水準となりました。

第3四半期は、春夏のコア商品や、新商品の販売が好調だったことから、値引き率を計画通りコントロールすることができました。その結果、売上高総利益率は前年に比べて大幅に改善いたしました。

3Q (3~5月) 売上高販管費比率 37.6% (前年同期比+1.4p)

**対売上高比率は1.4ポイント上昇
ほぼ計画どおり**

人件費	前年同期比	+1.3ポイント
広告宣伝費	同	▲0.6ポイント
賃借料	同	+0.2ポイント
減価償却費	同	±0.0ポイント
その他経費	同	+0.5ポイント

9

第3四半期3ヶ月間の売上高販管費比率は37.6%と、前年同期比1.4ポイント上昇しておりますが、これは金額、比率ともにほぼ計画通りとなっております。

経費比率が1.4ポイント上昇した内訳は、人件費比率で1.3ポイント、その他経費比率で0.5ポイント、賃借料率で0.2ポイント増えた一方で、広告宣伝費が0.6ポイント減ったことによります。

人件費比率の上昇は、主に、パート・アルバイトなどの店舗人件費を増やした影響によります。その他経費比率の上昇は、定番商品を中心に在庫を増やしたことにより、物流費・倉庫費が増加したこと、および物流コストの上昇によるものです。賃借料率の上昇は、都心部の大型店やショッピングモールの店舗の売上高構成比が高まったことによります。

また、広告宣伝費の減少は、去年増加したチラシ広告料などをコントロールしたため、通期の広告宣伝費比率は、前年と比べほぼ横ばいを予想しております。

**3Q
(3~5月) 計画通り、大幅な増収増益**

- ・グレーターチャイナ、韓国、欧州は好調な既存店売上高の伸びが続いたことで、計画を上回る増収増益を達成
- ・米国、東南アジア・オセアニア地区では、出店経費などの増加により営業利益は減益
- ・5月末の店舗数は前年同期末比188店舗増の598店舗

単位:億円

		1Q~3Q (2013/9~2014/5)			3Q (2014/3~2014/5)		
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比
海外ユニクロ事業	売上高	3,277	1,913	+71.3%	956	606	+57.7%
	営業損益	343	196	+75.1%	63	36	+75.3%
	(売上比)	10.5%	10.3%	+0.2p	6.6%	5.9%	+0.7p

10

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

第3四半期3ヶ月間での売上高は956億円、前年同期比57.7%増、営業利益は63億円、同75.3%増と計画通り、大幅な増収増益となりました。

グレーターチャイナ、韓国、欧州については、好調な既存店売上高の伸びが続いたことで、計画を上回る増収増益を達成いたしました。

一方で、米国、東南アジア・オセアニア地区では、出店経費などが増加したことにより、これらのエリアは減益となっております。

海外ユニクロ事業全体の5月末の店舗数は前年同期末比188店舗増の598店舗まで拡大いたしました。

**3Q
(3~5月) 各エリアの業績トレンド**

- ・グレーターチャイナ：計画を上回る大幅な増収増益**
 中国は順調な出店、UT、カットソー、シャツなどが好調で、既存店売上高の2桁増収が継続
 台湾は春夏コア商品に加え、キッズ商品が好調、既存店売上高は2桁増収
- ・韓国：計画を上回る大幅な増収増益**
 既存店売上高の増収が続く
- ・東南アジア・オセアニア地区：計画を下回り増収減益**
 東南アジアでは、売上高が計画を下回り、前年同期比で減益
 4月にオーストラリアに初出店したメルボルン店は、計画以上の売上を達成し、業績は好調
- ・米国：増収も、出店経費増で営業利益は若干計画を下回り減益**
 ニューヨークの3店舗の売上高は2桁増収と好調を維持
 今期9ヶ月間ではショッピングモールへ14店舗出店、特に西海岸の店舗の売上が好調
 出店前倒しにより、経費が増加。3Qの営業利益は、計画を下回り減益、赤字継続
- ・欧州：売上高、営業利益ともに計画を上回る**
 既存店売上高は2桁増収と好調、4月にドイツに初出店したグローバル旗艦店も順調

次に、各エリアの第3四半期の業績トレンドですが、

中国、香港、台湾といったグレーターチャイナでは、計画を上回る大幅な増収増益となりました。中国では、順調な出店が続いていることに加え、UTやカットソー、シャツといった商品が好調で、既存店売上高の2桁増収が継続しております。台湾でも春夏コア商品に加え、キッズ商品の販売が好調で既存店売上高は2桁増収を達成いたしました。グレーターチャイナ全体で、5月末の店舗数は355店舗に達しております。

韓国でも、既存店売上高の増収が続き、計画を上回る大幅な増収増益を達成いたしました。5月末の店舗数は132店舗に達しております。

シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、インドネシア、オーストラリアといった東南アジア・オセアニア地区では、増収減益となりました。この3ヶ月間では、東南アジア地区では、売上高が計画を下回ったことから、前年同期比で減益となっております。一方で、4月にオーストラリアに初出店したメルボルン店は、計画以上の売上を達成し、業績は好調に推移しております。

米国では、売上は好調でしたが、来期に予定しておりました3店舗の出店を前倒しする出店経費増などにより営業利益は若干計画を下回り減益となり、赤字が継続しております。ニューヨークの3店舗の売上高は2桁増収と好調を維持しております。また、今期9ヶ月間でオープンしたショッピングモール14店舗のうち、特に西海岸での店舗の売上が好調に推移しております。なお、9ヶ月累計の米国事業の赤字幅は前年に比べて縮小しております。

英国、フランス、ロシア、ドイツといった欧州事業では、売上高、営業利益ともに計画を上回ることができました。既存店売上高は2桁増収と好調に加え、4月にドイツへ初出店したベルリンのグローバル旗艦店も順調な売上となっております。

ドイツ・オーストラリアに新規出店

4月11日、ドイツ1号店のグローバル旗艦店をオープン



売場面積約800坪と、欧州最大規模。機能性素材のヒートテックの販売が好調！

4月16日、オーストラリア1号店をオープン

1号店の「エンポリアムメルボルン店」では、オープン初日に1,000名以上のお客様が行列。来期にはシドニーへも進出予定



4月11日にドイツ1号店として、グローバル旗艦店をベルリンにオープンいたしました。売場面積は約800坪と欧州では最大規模です。

ヒートテックを通年で販売するなど、機能性を打ち出し、競合他社との違いを強調するマーケティングを行った結果、順調なスタートを切っております。

また、4月16日にはオーストラリア1号店の「エンポリアムメルボルン店」をオープンいたしました。オーストラリアは南半球に位置するため、冬シーズンの品揃えでスタートしております。オープン前には1,000名以上のお客様が行列されるなど、大変な賑わいとなっております。オーストラリアでは、来期はシドニーへの出店も予定しております。



【グローバルブランド事業】第3四半期(3ヶ月)実績

3Q (3~5月) 営業利益は増益も、若干計画を下回る

- ・ジーユー事業：計画を下回り、営業利益は横ばい
既存店売上高が若干の減収、9ヶ月間累計のジーユー事業の営業利益は、若干の増益
- ・セオリー事業：計画通りの増収増益
日本は増益。米国は、景気低迷の影響を受け、若干の減益
9ヶ月間累計のセオリー事業全体の営業利益は、前年並み
- ・J Brand事業：計画を下回り、赤字が継続
- ・コントワー・デ・コトニエ事業：春夏コレクションが好調、増収増益
- ・プリンセス タム・タム事業：営業利益は計画を若干下回り、減益

		1Q~3Q (2013/9~2014/5)			3Q (2014/3~2014/5)			単位 : 億円
		9ヶ月累計 実績	前年 実績	前年 同期比	3ヶ月 実績	前年 実績	前年 同期比	
グローバルブランド事業	売上高	1,888	1,508	+25.2%	635	551	+15.3%	13
	営業損益 (売上比)	149 7.9%	134 8.9%	+11.3% ▲1.0p	57 9.0%	48 8.8%	+17.6% +0.2p	

グローバルブランド事業の第3四半期3ヶ月間の売上高は635億円、前年同期比15.3%増、営業利益は57億円、同17.6%増と、増収増益となりました。売上高は計画を上回りましたが、営業利益は計画を若干下回っております。

ジーユー事業は、第3四半期の既存店売上高が若干の減収となったことから、売上高、営業利益ともに計画を下回り、営業利益は前年同期比横ばいとなりました。なお、9ヶ月間累計のジーユー事業の営業利益は、計画を下回るものの、若干の増益となっております。

セオリー事業は、計画通りの増収増益を達成いたしました。日本のセオリー事業の既存店売上高は前年並みで増益、米国セオリー事業は米国の景気低迷の影響を受け、若干の減益でした。なお、9ヶ月間累計のセオリー事業全体の営業利益は、前年並みとなっております。

J Brand事業も、売上が計画を下回り、赤字が継続しております。

コントワー・デ・コトニエ事業は、秋冬に続き、春夏コレクションも好調だったことから、計画を上回る増収増益となりました。

プリンセス タム・タム事業は、売上高が計画を下回ったことから、営業利益は計画を若干下回る減益となりました。

【連結】2014年5月末 B/S

単位：億円

	2013年5月末	2013年8月末	2014年5月末	前年同期比
総資産	9,109	8,858	9,557	+447
流動資産	6,646	6,401	6,909	+262
固定資産	2,463	2,456	2,647	+184
負債	2,971	3,062	3,206	+234
純資産	6,138	5,795	6,350	+212

14

次に2014年5月末のバランスシートのご説明をいたします。

総資産は9,557億円と、前年同期末比447億円増加いたしました。
これは、流動資産が同262億円増加したこと、および固定資産が同184億円増加したためです。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +262億円 (6,646億円⇒ 6,909億円)

・現金・預金及び有価証券の増加 +249億円 (3,142億円⇒ 3,392億円)

・たな卸資産の増加 +512億円 (1,191億円⇒1,704億円)

【国内ユニクロ事業】+171億円 通年で販売する定番商品の増加

【海外ユニクロ事業】+283億円 店舗数が前年同期末比で188店舗増加

【グローバルブランド事業】+39億円

ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大による在庫増

・為替予約勘定: ▲680億円 (資産 1,644億円⇒964億円)

【国内ユニクロ事業】

5月末の為替レートが、保有する為替予約の平均レートより円安で為替予約勘定964億円を計上。保有する為替予約の平均レートと期末レートとの乖離が縮小し、為替予約勘定が前年同期末比680億円減少。ヘッジ会計適用のため損益への影響なし

固定資産の増加 +184億円 (2,463億円⇒2,647億円)

・有形固定資産の増加 +181億円 (939億円⇒1,121億円)

【海外ユニクロ事業】店舗数が前年同期末比188店舗増加

【グローバルブランド事業】店舗数が前年同期末比108店舗増加

まず、流動資産が262億円増加した要因をご説明いたします。

現金・預金及び有価証券の合計額は3,392億円と、前年同期末比で249億円増加いたしました。これは、海外ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによります。

期末のたな卸資産は1,704億円と、同512億円増加しております。国内ユニクロ事業の5月末の在庫は同171億円増加いたしました。これは主に、通年で販売する定番商品を増やしたことによります。海外ユニクロ事業の在庫は、前年同期末比で283億円増加しております。これは、5月末の店舗数が同188店舗増えたことによります。グローバルブランド事業の在庫は、同39億円増加しております。これは、ジーユー事業、セオリー事業の事業拡大に伴って在庫が増加したことによります。

為替予約勘定は、資産側で964億円と前年同期末比680億円減少いたしました。国内ユニクロ事業では、長期的なヘッジ方針に従って為替予約を行っております。5月末の為替レートが、保有する為替予約の平均レートより円安となったことから為替予約勘定964億円を計上いたしました。ただし、保有する為替予約の平均レートが円安になったことにより、期末レートとの乖離が縮小したため、為替予約勘定は前年同期末比で680億円減少いたしました。なお、ヘッジ会計を適用しているため損益への影響はございません。

固定資産は、前年同期末比で184億円増加しております。これは、海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の店舗数がそれぞれ同188店舗、108店舗増加したことにより、有形固定資産が同181億円増加したことによります。

	2013年8月期 第3四半期累計	2014年8月期 第3四半期累計	コメント	単位: 億円
営業活動によるキャッシュ・フロー	+1,008	+1,132		
税金等調整前純利益	+1,405	+1,415	ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献	
減価償却費、のれん償却額	+203	+261		
運転資金の増減額	▲134	▲249	売上債権、たな卸資産、仕入債務の増減の合計額	
法人税等の支払い・還付	▲409	▲432		
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲535	▲393		
有形固定資産の取得による支出	▲196	▲303	出店拡大に伴う投資	
無形固定資産の取得による支出	▲35	▲46	システム投資など	
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	▲267	-	前期はJ Brand買取に伴う支出が発生	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲222	▲357		
長期借入れによる収入	+156	-	前期はJ Brand買取に伴う借入れが発生	
配当金の支払額	▲283	▲311	期末配当金1株当たり150円、中間配当金150円の支払	
現金及び現金同等物の増加額	+481	+421		
現金及び現金同等物の期首残高	2,660	2,956		
現金及び現金同等物の期末残高	3,141	3,390		

次に、第3四半期累計のキャッシュ・フローについてご説明いたします。

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,132億円の収入となりました。ユニクロ事業をはじめとする各事業の利益貢献が1,415億円と収入が増加する一方で、運転資金は期末日が銀行休業日であったため、売上債権の多くが未決済となっていることにより、249億円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは393億円の支出となりました。支出の主な内訳としては、有形固定資産の取得で303億円、システム投資などによる無形固定資産の取得で46億円となっております。

なお、第3四半期累計の設備投資額は414億円、内訳としては、国内ユニクロ事業で66億円、海外ユニクロ事業で233億円、グローバルブランド事業で65億円、システム投資で45億円となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、357億円の支出となりました。主な内訳としては、配当金の支払額311億円の支出となっております。

以上の結果、2014年5月末における現金及び現金同等物の期末残高は3,390億円となりました。

2014年8月期 グループ事業別 業績予想

単位：億円

		2013年8月期	2014年8月期	
		通期実績	直近予想 (7/10時点)	前期比
国内ユニクロ事業	売上高	6,833	7,150	+4.6%
	営業利益 (売上比)	968 14.2%	1,000 14.0%	+3.3% ▲0.2p
海外ユニクロ事業	売上高	2,511	4,000	+59.2%
	営業利益 (売上比)	183 7.3%	350 8.8%	+90.7% +1.5p
グローバルブランド事業	売上高	2,062	2,530	+22.7%
	営業利益 (売上比)	174 8.5%	210 8.3%	+20.3% ▲0.2p

注：連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、のれん償却費が含まれております。
売上高には内部取引は含まれておりません。

17

ここからは、2014年8月期の通期業績予想についてご説明いたします。

9ヶ月累計の国内ユニクロ事業では、営業利益が約30億円の上ブレ、
海外ユニクロ事業の営業利益はほぼ計画通り、
グローバルブランド事業の営業利益は若干の下ブレとなっておりますが、通期のセグメント別の業績予想については、今回は、変更していません。

当期純利益予想を780億円へ減額修正
 J Brand事業の業績を考慮して、特別損失を160億円と予想
 2014年8月期通期業績より国際会計基準(IFRS)を導入

	2013年8月期 通期実績	2014年8月期 直近予想(日本基準)		2014年8月期 修正予想(日本基準)	
		(4/10時点)	前期比	(7/10時点)	前期比
売上高 (売上比)	11,430 100.0%	13,700 100.0%	+19.9%	13,700 100.0%	+19.9%
売上総利益 (売上比)	5,640 49.3%	6,865 50.1%	+21.7% +0.8p	6,865 50.1%	+21.7% +0.8p
販管費 (売上比)	4,310 37.7%	5,410 39.5%	+25.5% +1.8p	5,410 39.5%	+25.5% +1.8p
営業利益 (売上比)	1,329 11.6%	1,455 10.6%	+9.5% ▲1.0p	1,455 10.6%	+9.5% ▲1.0p
経常利益 (売上比)	1,489 13.0%	1,495 10.9%	+0.3% ▲2.1p	1,495 10.9%	+0.3% ▲2.1p
特別損益	▲74	▲60	-	▲160	-
当期純利益 (売上比)	903 7.9%	880 6.4%	▲2.6% ▲1.5p	780 5.7%	▲13.7% ▲2.2p

単位：億円

※実績および予想は日本基準

18

連結ベースでの通期の業績予想につきましては、当期純利益を880億円から、780億円へ減額修正いたしました。

これは、J Brand事業において、赤字が今期も継続しているため、現段階では減損損失の兆候があるかを含め検討しており、減損損失の可能性について否定することは難しいため、100億円を新たに織り込み、特別損失を160億円としたことによります。

この結果、通期の業績予想は、売上高1兆3,700億円、営業利益1,455億円、経常利益1,495億円、当期純利益780億円を見込んでおります。

また、本日リリースにて発表いたしました通り、10月に予定しております2014年8月期通期の業績から、国際会計基準(IFRS)を導入する予定です。

弊社の場合、IFRS導入により、のれんの償却が無くなることや、為替の影響などで、当期純利益では、今期は約40億円の押し上げ要因がございます。ただし、J Brandの減損損失が発生した場合、IFRSベースの当期純利益は日本基準予想の780億円と同水準となる見込みです。

なお、配当金につきましては、既の実施した1株当たり中間配当金150円と、期末配当金150円をあわせて、年間配当金300円を予想しております。以上で私からの説明を終わります。

ありがとうございました。

単位：億円

	2013年8月期	2014年8月期	
	通期実績	直近予想 (7/10時点)	前期比
売上高 (売上比)	6,833 100.0%	7,150 100.0%	+4.6%
売上総利益 (売上比)	3,180 46.5%	3,430 48.0%	+7.9% (+1.5p)
販管費 (売上比)	2,211 32.4%	2,430 34.0%	+9.9% (+1.6p)
営業利益 (売上比)	968 14.2%	1,000 14.0%	+3.3% (▲0.2p)

2014年8月期 配当金予想

年間配当金300円を予想

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2012年8月期	130円	130円	260円
2013年8月期	140円	150円	290円
2014年8月期 ※	150円	150円	300円

※ 業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、2014年8月の期末配当金額を変更することがあります。

連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位：店舗】	2013年 8月期 期末	2014年8月期							
		3Q累計 実績(2014/5末)				通期 予想(2014/8末)			
		出店	退店	増減	期末	出店	退店	増減	期末
ユニクロ事業合計	1,299	210	49	+161	1,460	248	61	+187	1,486
国内ユニクロ事業:	853	54	45	+9	862	54	55	▲1	852
直営店	834	51	44	+7	841	51	54	▲3	831
大型店	177	26	2	+24	201	26	4	+22	199
標準店等	657	25	42	▲17	640	25	50	▲25	632
FC	19	3	1	+2	21	3	1	+2	21
海外ユニクロ事業:	446	156	4	+152	598	194	6	+188	634
中国(除く香港)	225	66	1	+65	290	82	2	+80	305
香港	18	5	1	+4	22	5	1	+4	22
台湾	37	6	0	+6	43	9	0	+9	46
韓国	105	29	2	+27	132	32	3	+29	134
シンガポール	12	4	0	+4	16	6	0	+6	18
マレーシア	10	8	0	+8	18	11	0	+11	21
タイ	10	8	0	+8	18	10	0	+10	20
フィリピン	6	6	0	+6	12	10	0	+10	16
インドネシア	1	3	0	+3	4	3	0	+3	4
オーストラリア	0	1	0	+1	1	1	0	+1	1
英国	10	0	0	0	10	0	0	0	10
米国	7	14	0	+14	21	19	0	+19	26
フランス	3	3	0	+3	6	3	0	+3	6
ロシア	2	2	0	+2	4	2	0	+2	4
ドイツ	0	1	0	+1	1	1	0	+1	1
ジーユー事業	214	74	11	+63	277	77	16	+61	275
セオリー事業※	411	43	5	+38	449	43	5	+38	449
コントワー・デ・コトニエ事業※	375	7	8	▲1	374	8	9	▲1	374
プリンセス タム・タム事業※	150	4	2	+2	152	4	2	+2	152
JBrand事業	0	6	0	+6	6	6	0	+6	6
総合計	2,449	344	75	+269	2,718	386	93	+293	2,742

注：ミーナ事業、グラミンユニクロ事業の店舗は含まない ※フランチャイズ店を含む



<ご参考資料>

為替レート、設備投資、減価償却費、のれん償却費

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2014年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)	101.4	138.2	165.9	16.6	9.5
2013年8月期 第3四半期(9ヶ月平均)	86.7	113.0	136.5	13.9	7.9
2014年8月期 通期予想レート(7/10時点)	98.5	135.0	158.0	16.0	9.3
2013年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	89.8	117.3	140.2	14.5	8.1

設備投資 減価償却費 のれん償却額

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2014年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	414	215	45
2013年8月期 第3四半期実績(9ヶ月累計)	288	165	38
2014年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	584	262	60
2013年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	396	236	52

※2014年8月期通期予想ののれん償却額には、J Brandの減損損失は織り込んでおりません。

設備投資内訳

2013年8月期 3Q累計実績：国内ユニクロ 67億円、海外ユニクロ 131億円、グローバルブランド事業 57億円、システム他 29億円

2014年8月期 3Q累計実績：国内ユニクロ 66億円、海外ユニクロ 233億円、グローバルブランド事業 65億円、システム他 45億円

2014年8月期 通期予想：国内ユニクロ 98億円、海外ユニクロ 320億円、グローバルブランド事業 103億円、システム他 57億円